

日新
 苟日新 まこと ひ あら に日に新たに
 日日新 ひ び あら 日々新たに
 又日新 また ひ あら 又日に新たなり
 出典 「大学」

日新地区だより 32号



ゆめ
 にっしん

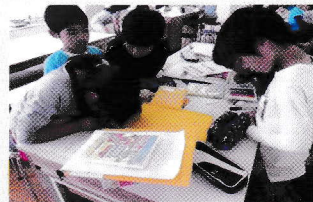
「ゆめ・にっしん」は、平成18年2月創刊。「日に新たに」ゆめある日新まちづくりの一翼を担い、地区文化の向上を願って今日に至っています。

発行：地域の誇り・まちづくり日新広報部会
 文京5丁目1-8 日新公民館
 発行日：2014(平成26)年12月20日

日新小3年 地図づくりに挑戦！

郷土発見に興味

日新小学校の3年生が、総合的学習の時間に、自分たちの目線で地区の名所などを調べる活動に取り組んでいます。45人全員が、底喰川、公園、伝統、交通、寺・神社、施設、学校の7グループに分かれて調べているもので、5月から本格的な活動をしてきました。活動名は、『日新地区のひみつをさぐれ！～名探偵3年～』。10月26日(日)には、授業参観で訪れた保護者を前に、それまでの



グループで調べています

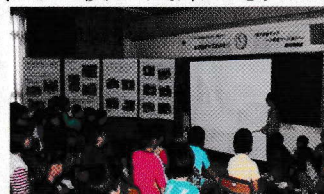
成果を堂々と発表していました。インテリ風に眼鏡を掛けて説明する面白い演出もあり、説明が終わるたびに、保護者らから大きな拍手がわいていました。

最終的には、調べた事を大きな地図に書いたり貼ったりしていき、12月中の完成を目指しています。完成した地図は、校内に掲示され、その後公民館でも見ることができます。



会場は熱気に溢れていました

子どもたちがこうした地図を作るきっかけとなったのは、日新公民館の郷土学習事業で作成した「日新かるた見て歩きMAP」。そのメンバーの一人は、「私たちが作った『MAP』がきっかけとなって、子供たちが地区の事を学ぼうとしてくれるのは大変うれしい。苦労した甲斐がありました。」と話していました。



元気に発表しました

交通部会

あと90日で明暗

ニューシンボル さんさんバス 運行の確立を！

部会長 山口 満

我らがさんさんコミュニティバス事業も、平成23年4月1日のスタート以来3年と8ヶ月を過ぎようとしています。今更申し上げるまでもなく、この事業目的は、少子超高齢化時代を見越した社会体制に対応するためです。この日新地区には、現在、75歳以上700名弱、独居老人と障害老人230名と大勢のお年寄りがおられます。今後ますます高齢化が進むことは確かであり、お年寄りが住める、やさしくて楽しい、安心のできるまちづくりをしていかなければなりません。こうしたまちづくりを目指す事を大きなテーマとしながら、この事業を通じて、日常の活動に対してのお手伝いや援助ができ、かつ地域のみなさんに少しでも喜んで頂き、地域の活性化を高める事をねらいとしてそのスタートに至りました。



悪天候だからこそ必要なバスです

平成27年10月からの本格運行の実施のための業績査定期間も、来年1月から3月までの90日間を残すのみとなりました。「人事を尽くして天命を待つ」の如く、この残された日数の期間中、我々部会一同は、公民館活動の各団体の役員を始め日新地区の皆さんの協力や援助を頂き、乗車人員の増強強化推進を図り、悔いの残らないものになりたいと思っています。乗車に対しまして皆さまにお願いをする次第です。

地区の内外を問わず、非常に喜んで活用して頂いている方々がおられます。その人たちの為にもさんさんバス運行事業の「灯」は絶対に消滅させる事なく、是が非でもさんさんバス事業の本格運行をみんなで成し遂げましょう。ご協力の程をよろしくお願い致します。

「この秋を終えて」

藤島中学校長 小林弥寿夫

学校生活が充実するのは、「実りの秋、豊の秋」と言われる9月から11月にかけてです。この「実りの秋」を「実らせる秋」にするために、生徒たちに中学生としての自覚を促したり、多くの感動を得られたりする仕掛け、すなわち様々な教育活動を展開します。これらを経て成長する生徒たちの姿に頼もしさを感じることが多々あります。

では、この秋のできごとを少し振り返ってみたいと思います。

9月の学校祭。生徒一人ひとりがテーマ「五色咲花」に向かって、それぞれの時間を自分たちで創りあげ、一体感・充実感・満足感が得られた文化祭でした。また、体育祭での応援合戦には特にたくさんの感動があり、生徒たちの成長を目の当たりにすることができました。



底喰川の清掃

10月には、多くの中学校同様本校でも、2年生が、地域の45の事業所等の協力を得て職場体験学習を実施。働くことの楽しさや厳しさを学ぶとともに、働いている人々に感謝する機会を持つ事ができました。加えて、「(公財)ふくい女性財団」の協力で、女性警察官等5人の職業人を招いて講話会も実施し、生き方を学びました。



「由紀さおり・安田祥子」コンサートで歌いました

また、文化・芸術の秋にふさわしく、「由紀さおり・安田祥子さん」の手づくりコンサートを学校で開催。大正・昭和と歌い継がれてきた「小さい秋みつけた」や「赤とんぼ」など15曲に耳を澄ませたり、一緒に歌ったりしました。お二人の透明感ある美しい歌声に感動を覚え、改めて日本の自然や季節のうつろい、そしてふるさと福井のよさを感じました。

11月。中学生が地域の中で活動する機会として、清掃活動を中心としたボランティアを実施。地域との交流を深めるとともに、地域の一員としての自覚を持ってました。近い将来、地域の担い手として活躍してくれる人が大勢出てくれることを期待します。



ボランティア活動に参加

うま年の締めくりまで残り数日。これまでを振り返り、今年創立30周年を迎えた本校のさらなる飛躍を誓い、誇れる校風と伝統づくりに邁進したいと思います。

環境部会

底喰川で観察会

副部会長 前川 栄寛

まちづくり日新環境部会は、環境・美化維持に関心をもってもらおうと昨年に引続き「底喰川の生きもの観察会」を実施しました。今年度は、昨年までの「ウォッチング」を統合して、前半は8月9日(土)、講師に矢村謙一氏をお迎えし36名(子ども14名)で底喰川河川敷に生える草花の観察をしました。



矢村講師にスケッチのポイントを学ぶ

また後半は9月28日(日)、藤丸陽子環境アドバイザーの指導で52名(子ども21名)が、生息する生きもの観察と生態系を学び、その後それぞれ初めてスケッチに挑戦しました。はじめは戸惑っていましたが、講師の指導で上手く描くことができるようになり、終わる頃には、参加した子どもから満面の笑顔がこぼれていました。



この魚の名前は…

生き物観察会終了後、バーベキューを囲みながら反省会・意見交換会を開催し、和やかに親睦を図る事が出来ました。子ども時代のこうした体験は大変貴重なもので、感性を豊かにしてくれるものと思います。

なおスケッチ作品は、公民館でパネル展示しています。是非見に来て下さい。

交通指導員さん ありがとうございます!

～指導員募集中～

交通指導員の仕事は、歩行者や自転車利用者が安全に通行できるよう正しい通行方法を指導したり、交通安全の広報活動をする事です。



福井市には、7月現在ですが172名の指導員がいます。公民館の立地条件などで異なりますが、一つの公民館には4名ほどの指導員がいます。しかし、日新公民館には、2名しかいません。

交通事故を無くし、安全で住みよいまちをつくるため、あなたの熱意を是非お貸し下さい。詳しい募集要項は公民館までお問い合わせ下さい。電話は、21-7225です。

交通安全を無くし、安全で住みよいまちをつくるため、あなたの熱意を是非お貸し下さい。詳しい募集要項は公民館までお問い合わせ下さい。電話は、21-7225です。

公民館まつり 盛大に開催

秋晴れに1,600人

第35回公民館まつりが開催されました。まつりは、10月18日(土)の前日祭と翌19日(日)の当日祭の2日におわたって行われ、約1,600人の大勢の人が参加しました。



ふれあいウオークスタート

前日祭の、今回で17回目のふれあいウオークでは、完歩者に振舞われるおろしそばを楽しみに、約200人の健脚家が、秋晴れの絶好のコンディションの中、約3.7kmの距離に挑戦。スタートする前には、福井大学附属特別支援学校生徒によるダンスが披露され、観客からも手拍子が起こるなど大いに盛り上がりました。

翌日の当日祭も多くの参加者で賑わいました。屋内会場では、舞台発表をはじめ活動報告の展示、趣味や活動の作品展さらにふれあいコーナーのお手前等が催されました。屋外では、うまいもん広場や販売コーナー、似顔絵や囲碁将棋のふれあいコーナー、抽選会場が設けられ、参加者は、思い思いに楽しんでいました。また、屋外のヒートアップ広場では、民踊やフォークダンス、更に、福大生のYOSAKOI



みんなで熱く踊りました

イッチョライや文里子供太鼓も登場して最高潮に。舞う人もバチを握る子供たちも、額にうっすらと汗を浮かべていました。

また、ふれあい福祉まつりや防災展も同時開催され、活動の報告・成果、用具の展示や説明などを行っていました。



頑張って踊りました



🤪 わがまち自慢

日本の文化を守り続ける畳屋さん

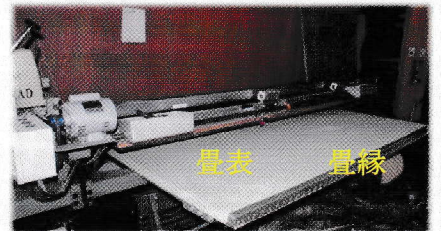
日新地区に2店

日本の住宅といえば、畳の敷かれた部屋が主流でした。ところが、生活様式が洋風に変化し、フローリングが多くなるにつれて畳が使われなくなってきました。そのため畳屋さんが減少し、福井市も例外でなく、およそ50店あった畳屋さんも最近では20店になってしまったとのこと。その内の2店がこの日新地区にあり、しっかりと日本の文化を受け継ぎ、守り続けています。長田たたみ店と本荘たたみ店です。

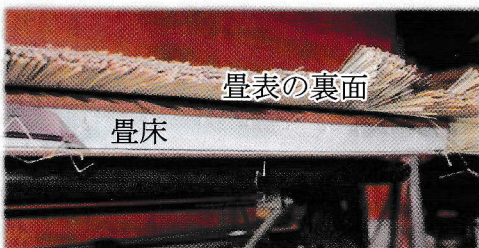
畳は、日本固有の文化であり、その歴史は古事記まで遡ることができます。その頃は、『畳床』はなく、現在のような構造と似た畳になったのは平安時代のころ。その後、書院造、数寄屋造など建築様式の変化とともに、部屋全体に敷き詰める使い方になりました。しかし、庶民が畳を使用できるようになったのは江戸中期以降で、それまで畳は、貴族や武士の富の象徴だったのです。

こうして伝えられてきた畳を解体してみることにしましょう。

畳は、畳床、畳表、畳縁の3つから構成されています。



ほとんど機械でつくります



畳表の裏面

畳床

畳床は畳の最も重要なもので、50cmぐらい重ねた藁を5cm程度に圧縮し縫い合わせたものです。この畳床は、「稲わら畳床」と言われ、かつてはこの畳床しかなかったのです。現在は、中心部に発砲スチロールなど化学製品を挟み込んだ畳床がほとんどです。

畳表は、藁草(いぐさ)を織ったものですが、最近は、化学処理した和紙の「こより」で織ったものが多く使われています。

そして畳縁。畳表の切り落とした部分を保護・補強するもので、絹や麻、綿さらにポリエステルなども使われ、柄や色など多彩です。畳縁ひとつで、和室の雰囲気が一変してしまいます。

これら3つを縫い合わせて畳は出来ています。昔は、人力だけで縫い合わせていました。ですから、畳を製造する職人さんは、福井県畳工業組合畳製作国家検定一級技能士などの資格を取得していました。しかし現在はそうした技術はあまり要求されなくなりました。機械で畳を作るようになったからです。ですから、畳作りは、日々機械との格闘だとの事。また、機械を自分のものとして自由自在に操り、納得のいく畳作りを心がけているとも…。さらに、新しく開発される畳の素材の特性をどう生かすかが課題だともおっしゃっていました。

こうした機械や新素材に対する前向きな姿勢が、日本の固有の文化を守り、発展させていくのでしょう。

いつまでも元気で

冬に多い病気や事故

この時期 寒さと乾燥が非常に厳しくなります。
十分な注意をして下さい！ 協力：福仁会病院

- ★風邪やインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染
- ★暖房機器による低温火傷
- ★寒さによる心臓の異常

- ★凍結や積雪で転倒しての骨折
- ★飲酒や餅の喉のつかえなど時期的行事が原因の事故

安全に過ごすために...

環境の調整：室温は20℃前後、湿度は50%～60%以上。寒さや温度差対策に衣服で調節、保温も大切です。また、入浴時の浴室と脱衣室の温度差も要注意！です。

感染から身を守る：うがいや手洗いの励行。流行時のマスク着用や人ごみへの外出を控える。ウイルスは、低温で乾燥した場所を好みます。環境調整と共に注意です。

食生活の管理：行事が多い時期。暴飲暴食に注意です。また、適度な運動や適度な水分補給を忘れないようにしましょう。



もう一つ大切な事



体調が変だと思った時は、迷わず受診！大事に至らない前に適切な治療を受けましょう。
そして、元気に春を迎えましょう。

文化部会

部会長 山崎 豊

秋の七草観賞とお月見だんごづくり

9月6日(土)午後1時15分より始めました。ひまわり児童館から、先生を入れて20人が参加。合計約60人となりました。



七草観賞からはじめ、団子づくりにとりかかりました。子どもたちが熱中し、出来上がりは上々、今年は水分を多めにしたためか、今までより少しやわらかく、食べごろになりました。

公民館まつり前日祭(底喰川ウオーク)



大勢の人が参加したウオーク

早朝から快晴に恵まれ、底喰川ウオークの完歩者に振舞うそばを用意する、そば打ち同好会の人たちも氣勢が上がったのか、そばはお昼には出来上がっていました。

予定通り2時より、ウオークの受付を始め、一般参加者185名と福井大学附属特別支援学校の小学生12名の総勢197名が参加することに。出発前に、1時間程支援学校の子どものダンスが披露され、盛り上がった雰囲気の中で午後3時半ごろスタートしました。午後4時半ごろにはほぼ全員ゴールし、そばに舌つづみを打っていました。

来年(平成27年)1月31日には「かるた会」を催します。是非ご参加下さい。

わがまち自治会

安心のまち・宮島

八ツ島第1自治会 会長 金谷 邦央

宮島地区は、八ツ島町、大宮5丁目、大宮6丁目、そして文京5丁目の一部から成ります。現街地の宮島と八ツ島の一字ずつ取って『宮島』と名付けられました。

この地区を流れる四ヶ用水は、堀ノ宮、三郎丸、西堀の利水のために掘り立てられ、現在も農作業などに利用されています。戦後、農地解放にともない、小作農から自作農が増え、現在も半農生活が続いているからでしょう。

宮島には、学校(藤島中学校、福井大学附属特別支援学校、近くには日新小学校)、西藤公園があり、日新地区の中心的地域になっています。

新しい住宅地



また、住宅地も造成され、住宅が多く建ち並び、人口も増加してきましたが、新旧の区別なく、



老若男女の住民同士のふれあいや助け合いもあり、和気あいあいとしたとても雰囲気良く感じられる地区です。私の住居もこの一角にあります。

また、子ども達が元気で伸び伸びと遊ぶ姿も見られます。安全対策が講じられ、地区住民たちが、温かい心で見守っており、安心して生活できる地区でもあります。これからも、地区住民が協力し、「和」のある、生活しやすい環境を継続していきたいと思っています。西藤公園

